『西洋の書物工房』　読書会　第5回

2014.9.17.

第2章　西洋の紙「羊皮紙」

　二　蝋板から冊子本へ

　☆蝋板

　　・古代ローマ時代の書写材料　→　紐で綴じ冊子へ

　　・プリニウス『博物誌』、イーリアス、アッシリア世界において使用

　☆文化の移動によって

　　・書物材料　パビルス　→　羊皮紙

　　・書物の形態　巻子本　→　冊子本

　★東洋の書写材料

　　・貝多羅葉：古代インドで文書や手紙を書くのに用いた多羅樹の葉。仏教の経文を書写するのにも

使用。（広辞苑）

　　・樹皮紙：　カジノキなどの木の生皮をビーター（石棒）で打って叩き延ばして作る紙　(ウィッキペディア)

 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A8%B9%E7%9A%AE%E7%B4%99>

約7000年前中国、インドネシア、南米などで作られ、使われていた。

　　　　　　　　　　　　・参考文献：坂本勇「南の「海のシルクロード」の紙」『鴨東通信』2013年　思文

閣出版。

　三　羊皮紙作り

　☆特徴：鞣されていない。柔軟性がない。ひどく硬い。湿ると波打つ。

　★日本語の混乱　←　日本での受容事情

　　・羊皮紙、ヴェラム、パーチメントの区別？

　　　　・『本の革の話』小林榮一郎編著　小林栄商事　1969年　によれば

　　　　ようぴひ：古代文字を書き記す目的でつくられた羊や山羊の皮紙で、パーチメントというのがこれである。

　　　　　　　ぺらむ：（１）羊・仔牛の皮を石灰でよく処理したものをいう。

　　　　　　　　（２）仔牛・子羊の皮革からつくった上等皮紙で　むかし　これに文字を書いた写本（ＭＡＮＵＳＣＲＩＰＴ）がイギリス他ヨーロッパ諸国に残っている。

　　　　パーチメント：羊皮紙・仔牛皮紙、はじめ　羊の皮を原料としてつくったので　羊皮紙といい

　　　　　　　　　　　後には　仔牛の皮を使うようになり　両者とも　パーチメント　といった。

　★現代日本の羊皮紙扱い専門店　羊皮紙工房 <http://www.youhishi.com/index.html>

 上智大学教養講座　古代地中海世界探訪講師なども：アレクサンドリアとペルガモン：古代図書館と書写素材

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　クムランとカイサリア：死海写本とシナイ写本